

自己評価および外部評価票

自己評価の実施状況(太枠囲み部分)に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示するだけでなく、全職員に配布、会議、ミーティング時に再確認し、各自意思の統一を図っている。	個々に適した自立支援、思いやりの心、資質向上と自己研鑽、地域住民の方々とのふれあいを4つの柱として、全職員との共通理解を図り、普段の実践で活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と散歩に出かけた時、会う人に挨拶や会話を交わし、交流を広げている。又回覧や広報の伝達をしたり、地域のリサイクル、清掃、新年会等寄り合い等に参加したりしている。	これまでの地域の組合とのつながりばかりではなく、グループホームの上の地域の「サロン会」とつながりができ、通りがかりに寄っていただくようになった。施設を見学してもらい、利用者さんを知っていただき、交流の輪が広がってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるため、ご家族様や学識経験者のとの話合いで意見を求めたり、会話の中で共通理解を求める。また、地域の会の中での健康相談の窓口になって貢献している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月毎の会議の中で報告すべき事は怠ることなく、改善すべき事は真摯に受け止め、サービス向上の為のアドバイスを受けている。	運営推進会議で話題となり、課題となって残されたものについては、例えば、駐車場の白線引き・2階の非常階段の出入口や外灯の設置など、どのように解決してきたかを報告して、さらなるサービス向上を目指している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に介護保険認定更新や介護度の区分変更等理由の事実確認の為の連携で協力関係が保持出来ている。	介護認定更新などの事務連絡だけでなく、運営推進会議には町の担当者の他に消防署関係者に参加してもらったり、障害者雇用支援の関係でハローワークの担当者と連絡したりして、幅広く協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様が常に安全にゆったりと束縛のない生活行動が出来るよう見守り、声かけをして安全確保している。鍵は開放している。	一時、安全確保の点から、施錠について問題になったことがあったが、個人の尊厳を尊重し、個々に適した自立支援を目指していく、と言う理念に基づき、鍵をしないケアを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ともすると、過剰なスキンシップやボディタッチと勘違いされる行動が見られるが、皆で注意しあい各自意識改革に努めている。言葉の虐待にも気をつけている。		

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は必ず受講し理解しているが、実践に結び付くケースが少ない。今後必要であれば活用していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	ご利用者様やご家族様の不安や疑問点をしっかり把握し、再度に渡る納得できる対応、わかりやすい説明をしていく		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時必ず要望や心配事を話していただき、どんな細かい事でも意見要望として取り入れ、安心して利用して頂ける様協力を得る。	常に利用者家族との関係を大切にし、面会時にはいろいろな意見・要望を聞くよう心がけている。家族会を計画しているが、家族の事情・交通事情などでまだ立ちあげるまでには至っていない。	いろいろな機会や働きかけによって、多くの利用者の家族が会し、意見・要望をまとめる場を設けていくことがこれから大事になっていくと思われる。家族会を発足することを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に希望事項やアドバイスを受入れ、連携を密にし提案等は前向きに出していただき信頼し合う。	新しい職員も先輩の職員にとっても、職員会議は意見を出しやすい雰囲気になっている。また、各ユニットのリーダー(運営者と計画作成担当者)は、それぞれの職員の意見・要望の聞き役として、信頼されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常に代表者と連携し、報告、連絡、相談しながら職場環境の改善に努め介護の質の向上に向け整備していく。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員を先輩が育成できる様な体制をとって、検討会やミーティング等の場を通して働きながらトレーニングしていく		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や会議で他の関係者とお会いする事が多く、常に交流できる様ネットワーク作りの中でサービス向上の取り組みが出来る。又お互いの活動の取り組みを参考に出来る。		

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>それぞれのご利用者様の尊厳を基に、個性を尊重し、傾聴、共感、受容的態度を持って信頼関係を築き、安心できる関係作りを目指している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様が今何をどのようにしたらよいか希望を聞き、安心して事業所との関係が維持できるか気づきを大切にしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご利用者様、ご家族様の話をしっかり聴き、希望に添え把握出来ること、出来ないことの見極め、状況に併せ、支援している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者様の気持ちを尊重し共有できる環境の中で、共に生活し同じステージで関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご利用者様を中心に連絡をとりながら、ご家族様との絆が保てるよう支援している。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている</p>	<p>入所前のご利用者様の元のケアマネージャーさんの話や友人、知人等の面会での情報から、支障のない限りの連携関係を築いている。</p>	<p>家族と連絡して、正月・盆、お祭りや誕生日などに気軽に家に帰ったり、外泊したりできるように支援している。また、友人・知人との関係を大切にこれまで関係が続くよう務めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>いつもホールでテーブルを囲み和気あいあいの環境の中でお互いに談話、レクリエーション等で出来ること、出来ないことを助け合いながら関わりを持っている。</p>		

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方々には各事業所や包括と必要に応じて状況確認の連携をとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしいゆったりとした安全な生活が出来る様、個性を尊重し臨機応変に対応している。本人本位の尊重。	利用者一人ひとりの生活や行動パターンを聞き取りや観察から把握したり、個々の思いや希望や意向を言葉や表情などから把握したりして、きめ細かなケアを心がけている。そして、本人の力に合った自立支援を行なっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の生活やアセスメントの中から昔の思い出話や生活環境を把握し、個々のご利用者様が馴染みの関係が送れる様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をしっかり支援し、一日の生活の中で変化の気づきを大切に安全に安心できるゆったりとした生活の維持を支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や必要時、カンファレンスを行いご家族様との面会や電話等緊急時の連絡も含め、より良い生活の維持が出来る様ケア計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を決めて介護計画を立てたり、見直したりする時に、独自に「個別援助計画」を作成している。これを基に、「日課サービス計画表」を作り、きめ細かな実践をしている。分かりやすく介護計画を説明できるので、利用者の家族には好評である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日頃の生活の様子をケア実践の中で記録し、計画の見直しや職員間の情報共有に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は今後の課題である。現在はご利用者様やご家族様の希望で終末ケアを実践している。		

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣や地域の役員さんと連携がとれている。地域の方に顔を出していただき、又ボランティアさんも定期的に来所し交流が出来る。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協定を結んでいる地域の診療所の医師に定期的に月二回往診して頂き、ご利用者様の体調管理や異常の早期発見、薬の処方、診療の支援を受けている。	地域の診療所がかかりつけ医として、月2回の往診、緊急時の診療など連携しながら支援している。また、終末期医療についても密接に連絡をとっている。2月1回定期的に歯科検診を行なっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の生活の関わりの中で介護員と協働連携し、適切な看護支援が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が急変した場合や入院を余儀なくされた場合、病院関係者と情報交換や相談でご利用者様が安心して療養できる様連携した関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の気持ちや希望を尊重し、インフォームドコンセントで医師とご家族様が相談し充分納得された上で終末ケアを支援している。	ターミナルケアのマニュアルを作成してという矢先、1階の利用者の看取りをすることとなった。看取りをする過程で、家族と医師との連携を図り、職員の共通理解を得て、グループホームで最期を迎えたことは、家族からは感謝され、職員の自信ともなってきた。	見取りの経験を活かしたマニュアル作りを通して、さらに充実したターミナルケアを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で事例を出し合い、実践力を養っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と協力体制を築き、訓練やマニュアルを全職員に周知している。役場にもご利用者様の生活状態が分かる書面を提出、定期的な訓練やシュミレーションを行い、避難場所も一時的に確保できている。	年間計画の中に、毎月の使用器具の点検を位置づけ、消防署や役場の協力の下地震・火災・冬期消防訓練や避難訓練などの他、応急手当・救急法の講習会などを行い、全職員の意識を高めている。	

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者様の尊厳とプライバシーの保護に努め、常に声かけや対応の仕方に細心の注意をはらっている。	職員が、利用者一人ひとりの行動や表情を見て、明るく適切に声かけし、対応している。その声かけや対応の仕方が、利用者一人ひとりの個性などを活かしたものであるため、和気あいあいとした会話ができている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に柔軟な対応で接し、ご利用者様がどんなことでも表現できる様希望に添いながら自己決定権を尊重する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつもご利用者様の立場に立ち個別ケアを元にゆったりと安定したその人らしい生活に向け希望に添い支援していく		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方がお好みの身だしなみや服装、おしゃれが出来る様又、気持ち良く生活が出来る様着替えや保清に留意し支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様が何が食べたいか希望も含め食材から調理、食器の準備を手伝って頂き、盛り付け、配膳、下膳等トータル的に役割分担を持って楽しい雰囲気の中で食事が出来る様支援していく	1階は2階と違った献立で、利用者の希望を元に準備 調理 片付けなど一緒に食事することを楽しんでいる。嚥下機能低下の利用者がいるが、刻み食など工夫しているので、皆残すことがないほどよく食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のご利用者様の食事量や栄養状態、水分の摂取量を把握し栄養管理の支援をしていく		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清拭（歯磨き、うがい）口腔内の確認等習慣的にご利用者様の力量に応じたケアを行い、自分で出来ない人は職員が介助している。歯科医に往診して頂き口腔チェックをして頂く		

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者様の排泄パターンを把握し、定期的にトイレに誘導し自己排泄を支援して、失禁やパット使用を軽減でき気持ち良い衛生的ケアを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、動き出したところを見計らって、一緒にトイレに行くようにしている。パットは無理にしないで、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、食生活のバランスを考え栄養状態に注意し個々のご利用者様に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のご利用者様の入浴パターンを尊重し希望に沿って柔軟に対応し、体調の悪い時は清拭、部分浴、足浴等で対応し安全とリラックスできる気持ち良いケアを心がけている。	1週間に2回以上は入浴できるように利用者一人ひとりの希望や体調に合せ、部分浴や足浴、清拭など柔軟に対応してきた。そして、気楽に、気持ちよく入浴できるよう支援してきたので、入浴を拒否する利用者がなくなってきた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団は天気の良い日は毎日干してベッドの環境整理を行い、気持ち良い環境空間を提供して安眠できる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の副作用に気をつけ誤薬、誤嚥が無いよう飲み込みを確認し、症状の変化に気をつける。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活がそれぞれのご利用者さんにとって有意義であり張り合いのある生活が送れる様、又ご利用者様の自力が発揮できる様強制せず、いつも気分転換できる様支援し、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	歩行困難のご利用者様には車椅子や杖で安全に外出できるように、外気に触れ気分転換している。ご家族様の方とも外出して昼食や買い物を楽しまれている。	散歩したり、買い物したりなるべく外出するように心がけている。また、家族との外出・外食ができるよう支援している。冬になると、外出する機会が少なくなるので、庭での日光浴や室内でのボール遊びやカルタ取りなどをして気分転換できるようにしている。	

グループホーム 幸楽 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意思も踏まえながらお金を持っているという安心感を考慮し、事務室で預かり臨機応変に希望に添い使用して頂く。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様は高齢であり耳の遠い方もいて受話器の操作が出来ない方もいる為、受話器を渡し職員がセッティングしご家族様と話していただくよう支援している。手紙やはがきは職員が投函させて頂く。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務室の前のフロアーに装飾台を設置しご利用者様が作った手芸品や花等を飾り、ゆったりとした空間でギャラリーとして心を和むような環境を設定している。	1階は、玄関から事務室前のフロアーに、花や利用者が作った手芸品が飾られ、和やかな雰囲気を感じられる。また、居間と食堂を兼ねている空間は、利用者がいつも気楽に集まって話したり、食べたり、休んだりできるように椅子やテーブルが配置されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はご利用者様にとって懐かしく感じたり使いやすかったりする物品を選んでおき、思い出が回想出来る様考慮し柔軟に対応している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、収納箱、コンテナ、タンス、写真等ご利用者様の思い出の物品を持参してもらい、使い心地や愛着を持って利用できるようにしている。	旅館だった施設を改造したので、1階の居室は廊下を挟んで並んでいるが、それぞれの居室は利用者が使い慣れた物が置かれ、その人柄が分かり、気持ちよく休めるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の日常生活においては混乱や行動の失敗に対して、環境面からスポットを当て身体機能の変化を見逃さず、現状に応じて環境作りを行っている。		

(別紙)

自己評価および外部評価票

自己評価の実施状況(太枠囲み部分)に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議の中で常に共有し、意思の統一を図っている。	個々に適した自立支援、思いやりの心、資質向上と自己研鑽、地域住民の方々とのふれあいを4つの柱として、全職員との共通理解を図り、普段の実践で活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣住民へ声かけや地域住民の方々の施設見学の受け入れを行い、常に交流を図っている。	これまでの地域の組合とのつながりばかりではなく、グループホームの上の地域の「サロン会」とつながりができ、通りがかりに寄っていただくようになった。施設を見学してもらい、利用者さんを知っていただき、交流の輪が広がってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の協力を仰ぎ、地域で活動されているボランティアの方々を対象に認知症について理解して頂くための施設実習の受け入れを行い、ボランティア活動の内容の充実を図っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一回の運営推進会議毎に前回の残された課題を次回までに検討し、常に結果を報告し、理解して頂く。	運営推進会議で話題となり、課題となって残されたものについては、例えば、駐車場の白線引き・2階の非常階段の出入口や外灯の設置など、どのように解決してきたかを報告して、さらなるサービス向上を目指している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新時は常に町や村の関係事業所と連携し、調査に加え現状についての情報交換により協力関係を築いている。	介護認定更新などの事務連絡だけでなく、運営推進会議には町の担当者の他に消防署関係者に参加してもらったり、障害者雇用支援の関係でハローワークの担当者と連絡したりして、幅広く協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解する為の研修をし、職員会議の場では施錠の無いゆったりとした生活ができるよう共通理解を図っている。	一時、安全確保の点から、施錠について問題になったことがあったが、個人の尊厳を尊重し、個々に適した自立支援を目指していく、と言う理念に基づき、鍵をしないケアを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員が研修に参加し虐待について理解し、常に共有し職員同士で指摘し合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修会参加の後、全員が理解するために資料を参考にして学ぶよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	入所希望の際に入所に関する適切な説明や、ご家族様の抱えている不安、問題点を受け入れながらわかりやすく説明し安心して入所していただけるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご家族様との連携を密にし、面会時に気づいたことや意見を聞き入れ、その都度職員間で共有し運営に反映させている。	常に利用者家族との関係を大切にし、面会時にはいろいろな意見・要望を聞くよう心がけている。家族会を計画しているが、家族の事情・交通事情などでまだ立ちあげるまでには至っていない。	いろいろな機会や働きかけによって、多くの利用者の家族が会し、意見・要望をまとめる場を設けていくことがこれから大事になっていくと思われる。家族会を発足することを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において職員一人一人の様々な意見を話し合い前向きに反映させている。	新しい職員も先輩の職員にとっても、職員会議は意見を出しやすい雰囲気になっている。また、各ユニットのリーダー(運営者と計画作成担当者)は、それぞれの職員の意見・要望の聞き役として、信頼されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常に代表者は管理者と連携し、個々の職員の向上心を尊重し無理のない勤務体制に心がけ、質の向上に向けた検討会を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が積極的に参加できる場を設け、その研修を職員全体に回覧し、全員に周知して、常に現場で活かすことができるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場で、他事業所との連携により情報交換しあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>常にご利用者様の立場に立ち、同じステージで傾聴、共感し安心できる関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス前の様々な事情を真剣に聞き取りながら理解し、施設への要望や今抱えている不安をしっかりと受け止めた上で信頼関係を築き安心の確保に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現状を把握し契約にあたりその条件を満たしているかの確に判断し、状況に合わせて支援している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常にご利用者様の想いを尊重、同じステージでの環境づくりに心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話での情報交換による連携や月に一度のお便りの中で、ご利用者様の状況を報告し生活状況を把握していただいている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている</p>	<p>気軽に外出、外泊が出来る環境づくりに努めている。</p>	<p>家族と連絡して、正月・盆、お祭りや誕生日などに気軽に家に帰ったり、外泊したりできるように支援している。また、友人・知人との関係を大切にこれまでとの関係が続くよう務めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の生活パターンが違う中、一日の大半をホールで過ごされるご利用者様が多く、お互いの会話が弾んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も関係事業所を通して経過を把握し、時として対応についてのフォローを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人一人の行動パターンを把握し、個々の想いや希望に沿ったケアに努めている。	利用者一人ひとりの生活や行動パターンを聞き取りや観察から把握したり、個々の思いや希望や意向を言葉や表情などから把握したりして、きめ細かなケアを心がけている。そして、本人の力に合った自立支援を行なっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントを常にケア日誌に綴り、個々のニーズに合った個別ケアに努め、なじみの話や環境で生活できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケア日誌を実施し、全職員が共有し把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスでケアのあり方の再認識やご家族様、ご利用者様の思いを反映させるよう努め介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を決めて介護計画を立てたり、見直したりする時に、独自に「個別援助計画」を作成している。これを基に、「日課サービス計画表」を作り、きめ細かな実践をしている。分かりやすく介護計画を説明できるので、利用者の家族には好評である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録を元にカンファレンスで検討し、職員同士の意見交換により日々の生活の様子を把握している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じてご家族様の思いやニーズに対応し出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の協力を得ながら日々の生活の豊かで安全な生活を楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診や緊急時の対応時には、常に主治医やご家族様と連携し状況確認が出来る。	地域の診療所がかかりつけ医として、月2回の往診、緊急時の診療など連携しながら支援している。また、終末期医療についても密接に連絡をとっている。2月1回定期的に歯科検診を行なっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいた情報は常に看護師に報告し、適切な指示の元に対応できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族様や医療関係者と常に連携を図りながらご利用者様の状況確認、及び面会により直接ご利用者様や病院関係者と情報交換し、安心して療養できるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、常に職員間で早い段階から共有し取り組む体制が出来ている。	ターミナルケアのマニュアルを作成しようという矢先、1階の利用者の看取りがあった。2階の職員も、グループホーム全体の問題としてかわり合い、職員の自信ともなってきた。	見取りの経験を活かしたマニュアル作りを通して、さらに充実したターミナルケアを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下での訓練や研修の場で学びとり、取り組む体制が出来ている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練により全職員が参加できる研修を設け、町や消防署の協力体制の下常に意識している。	2階の利用者は特に避難に課題が多くあるため、消防署のアドバイスを受け、避難階段の足場を改善したり、近隣の方々の協力を得たりできるよう協力体制を十分とっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に職員会議で話しあったり、研修等に参加したりする事で職員間でお互いに共有するよう声かけしている。	2階の利用者は1階の利用者と比較すると塗り絵や縫い物などコツコツとした地道な趣味の方が多く、穏やかな雰囲気の中過ごしている。これも、職員が利用者一人ひとりの個性を生かした言葉かけや対応を行なっているからだと思われる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる人には一人一人傾聴し、意思決定が困難な方には常に行動を見守りながら判断している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活動作を個々に観察し穏やかな生活が送れる様意識し対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の身の回りの環境や身だしなみを、その人らしく生活できる様常に視野を広げ、状況に応じて対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食材に合わせてご利用者様と献立を考えたり、片付けを自らすることで満足感を得ている。	2階は1階とも違った献立で、利用者の希望を元に準備・調理・片付けなど一緒に食事することを楽しんでいる。利用者は皆かなりの量を食べ、中には「これを食べ？」と言っておかずなどを進めたりして、食べることを本当に楽しんでいるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を常に把握し記録する事で習慣に基づいて支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは自ら進んで行っており、介助が必要なご利用者様は声かけで常に状態確認している。		

グループホーム 幸楽2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて行動パターンの把握や促しにより自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、動き出したところを見計らって、一緒にトイレに行くようにしている。パットは無理にしないで、気持ちよく排泄できるよう支援している。観察している間にも、そっと自然に動き出していた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中で適度な運動や散歩を通し、食生活のバランスや必要とされる水分摂取量に留意しながらその人に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のご利用者様のニーズに合わせ柔軟に対応し、決して強要することなくその日の体調に合わせて臨機応変に対応している。	1週間に2回以上は入浴できるように利用者一人ひとりの希望や体調に合せ、部分浴や足浴、清拭など柔軟に対応してきた。そして、気楽に、気持ちよく入浴できるよう支援してきたので、入浴を拒否する利用者がなくなってきた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の時間を個々の思い思いの過ごし方で、安心して休息できる環境を整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について処方毎にケア日誌に綴り、内容の確認が出来る様職員間で徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やレクリエーション、散歩等で一人一人が楽しく気分転換できる様支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調や天候に合わせて職員間で連携しながら出来るだけ屋外へ出る機会を増やし、ご家族様と外出したりしている。	散歩したり、買い物したりなるべく外出するように心がけている。また、家族との外出・外食ができるよう支援している。冬になると、外出する機会が少なくなるので、庭での日光浴や室内でのボール遊びやカルタ取りなどをして気分転換できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半はご自分で管理が出来ないが、出来る方に関しては常に声かけしながら希望を聞き取り、購入出来るようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書く事でリハビリになるとご本人が日記を書いたり手紙を書いており、回数は減ったものの無理しない程度に継続できている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保たれ、居心地の良い空間で生活出来ている。	2階は、エレベーターの前のフロアーに、花や利用者が作った手芸品が飾られ、和やかな雰囲気が感じられる。また、居間と食堂を兼ねている空間は、1階よりやや狭いが、利用者がいつも気楽に集まって話したり、食べたり、休んだりできるように椅子やテーブルが配置されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居場所が出来、思い思いにゆったりと生活出来ている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し、出来る限り使い慣れた物で環境を整え安心して生活して頂いている。	旅館だった施設を改造したので、2階の居室は廊下の片側に8室、もう片方に1室並んでいるが、それぞれの居室は利用者が使い慣れた物が置かれ、その人柄が分かり、気持ちよく休めるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の日常生活動作を把握し、職員間で周知しながらその人の出来ること、出来ないことを理解し、自立に向けた支援を行っている。		